

日本児童文学学会例会 7月開催のご案内

日本児童文学学会例会（東京）を7月に対面で開催いたします。事前申し込みをいただければ、会員以外の方も参加していただけますので、お誘い合わせの上、みなさまご参加ください。

<日時> 2024年7月20日(土) 午後2時～4時

<場所> 日本女子大学 しんせんざんかん 新泉山館1階 大会議室（東京都文京区目白台2-8-1）
<https://www.jwu.ac.jp/unv/access/access.html>

<参加費> 無料

<参加方法> 対面開催。右のGoogleフォームでお申し込みの上、会場にお越しください。
<https://forms.gle/QDChPAcJDWS16S7p7>

※ 申し込み締切：7月17日（水）



▲ 申し込みはこちらから

<スケジュール>

受付・開場 13:30～

研究発表 14:00～15:00

語る認知症老人という試み ー江國香織「晴れた空の下で」論ー
石元みさと（日本女子体育大学体育学部スポーツ科学科 専任講師）

<発表概要>

認知症の症状が見られる人物が登場する児童文学は、テーマや登場人物の描かれ方、語りに偏りが見られるが、江國香織「晴れた空の下で」は例外的な存在である。認知症の老人自身の語りで、この作品が何を描いているのか分析してみたい。

講演 15:00～16:00

絵本で伝える共生社会、ユニバーサル・デザイン
竹山美奈子 氏（絵本作家）



『すずちゃんのおみそ』
文 竹山美奈子 絵 三木葉苗
監修 宇野洋太 岩崎書店 2018

<講演概要>

竹山さんの娘、鈴乃さん（すずちゃん）は、3歳のときに自閉症スペクトラムと診断されました。保育園のおともだちが投げかけてくれた「すずちゃんのおみそ（障がい）」についての素朴な質問に答えたい、仲良くしてくれたお礼を言いたい、と竹山さんは手紙を書いて紙芝居にして自費出版し、卒園式前に演じました。その紙芝居が、子どもの本の出版社、岩崎書店の目に止まり、2018年に絵本『すずちゃんのおみそ』（三木葉苗 絵）が出版されると、韓国版、台湾版、中国本土版、電子書籍が発刊されるなど、国内外で大きな反響を呼びました。

本講演では、絵本作家として、また、障がいをもつ子どもと暮らす親としてのご経験をもとに、絵本の制作について、また、メディアとしての絵本の役割や可能性についてお話しいたします。



<講師プロフィール>

大阪府堺市生まれ、静岡県三島市在住。静岡大学教育学部を卒業後、教育系出版社に勤務。企画・編集、ブックデザイン、宣伝、広報などに携わる。

現在は、絵本の創作活動に加えて、絵本制作や障がい理解に関わる講演活動も行っている。

『すずちゃんのおみそ』に続き、2020年にはダウン症の女の子のお話『あいちちゃんのみみつ』（えがしらみちこ 絵）が、2024年には、ユニバーサル絵本『はるなつあきふゆクロとシロ』（田中ゆき 絵）が岩崎書店から刊行された。

司会：今田由香（日本女子大学）

主催：日本児童文学学会 共催：日本女子大学 家政学部児童学科

問い合わせ：例会担当（jscl.tokyo@gmail.com）